

将来ビジョン及び必要な取組・事業

提案主体名	一般社団法人山口県地域木造住宅相談センター 東京木材研究所	※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入してください。
提案プロジェクト名	西条農業革新都市	※同一主体で複数の提案をする際は別名称としてください。
都道府県名	愛媛県	※複数の都道府県にわたる場合は「、」で区切って記入してください。
対象地域	西条市	※複数の市町村にわたる場合は「、」で区切って記入してください。 ※特定の地区を想定している場合は、それも合わせて記入してください。

① 関連する分野	環境（森林整備） 超高齢化（新しいコミュニティ作り） その他（農業新規参入者受け入れ）	※国際連携・国際化に関する事項は、分野ではないため、「その他」欄に記載しないでください。
-----------------	---	--

② 将来ビジョン(環境価値、社会的価値、経済的価値の創造に関する総合的な目標(2050年を見据えた上での2020年、2030年の姿))	※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。
--	---

国民が生活を行う上で、農業は国民の健全な生活を営むため「食の安全と安心」を担っている。又、「安心と安全」の作物は、内容により高く評価され近隣国民にも評価を受けた物は高付加価値を得ている。日本の農業技術は、各都道府県の農業技術センターや農業系の部を持つ大学や農業高校に「新品種の開発」「品種の改良」等が行われている。今回の「環境未来都市」の中で、特に「農業革新都市」としての考えであれば、構想の中には、農林水産省のテーマである「新農業200X」や、「有機JAS規格」にもつくオーガニック栽培等の農業の推進が行われる街づくりも選択肢の一つである。また、瀬戸内海の気候に合わせた「柑橘類」をはじめ果樹栽培が盛んである。「有機」や「自然農法」や「酵素利用栽培」等の試験栽培を行ない「甘味」や「旨味」を極めた商品を取り出すことが「付加価値を持つ商品」を生み出すことにより「環境未来都市」としての地域に繁栄をもたらす。西条市は、四国のある面では瀬戸内側の中間点にあり、四国全域の抱える「森林整備の推進」を行う上では林業集積にも整備されれば良い市に有ると考えます。農業を取り組む方たちには、多くの山のお守りの役割もあると思います。中国野菜に対する不信感から「安い」だけの農業では売れない、逆に中国の富裕層は「日本のものなら安心である」とい購買意欲が高く、高くても買うという現象がおきている。中国産が90%を占める日本の「タケノコ」市場も、今や「国産タケノコ」に回帰したいと大手食品メーカーは考えています。持続可能な森林整備のためにはまず「竹」の整備が必要です。「タケノコ」林への整備が利益を呼び込む対策となります。そして定期的な整備で得た竹材は、現在次世代建材の原料として大手が利用の為に研究開発を進めていますので、「近未来重宝される」強い繊維を持った森林資源(バイオマス)のポジションを得ると思えます。そして、健全な「持続可能な森林」も果たせます。そこで発生する大量の森林バイオマスを利用した「新農業」こそ、昔の農業作物を品種改良しなくても「旨味」があり、栄養豊富な現代の消費者が求める野菜であり果物であります。私は、西条市としての「未来都市」作りはそこから始まると思えます。

③ 将来ビジョン(②に記載した目標の実現のための取り組みの基本的な考え方)	※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。
--	---

最新の科学技術と科学技術を駆使しての「環境未来都市」の構築には生産者にも抵抗があると同時に、消費者(西条市民、愛媛県民、日本国民、日本の農業に期待する諸外国)には抵抗が有ると考えます。消費者に指示されない、購入していただけない「環境未来都市」の建設は出来ないと考えます。まず、「緑の循環」「バイオマスの総合利用」「都市資源の利活用」が出来てこそ「環境未来都市」であります。循環型社会の構築の中で相応しい「新農業」の①技術開発を行ない、②実施検証を行ない、③地域にあった採算の取れる「特産物」の開発「既存の特産物」の改良により、ベテランの農業従事者も農業に魅力を持たせてチャレンジする「若者」も楽しく、活き活きと働く事が出来る「環境農業未来都市」を目指してもらいたいと考えます。今までのハウス栽培では限界が有りますので、西条市の原案にある、土壌の状態、栽培室の温度、湿度管理等は、IC技術の活用で簡単に出来ます。栽培をする農業にはとても難しい課題がありますので、学者の理論だけでなく、経験豊かな苦勞され信念を持たれた実践者の指導・実験農場の提供も必要な事です。甘味を増す技術には「糖度2度の向上」もあり、野菜・果物の糖度が2度向上すれば、例えばトマトは、フルーツトマになり、スイカはメロンの域に達し、温州みかんはポンカン以上の商品になります。温室そのものも「木材フレーム」の断熱材で措置された「産直木材ハウス」。冬場の温度は、低周波を利用し発熱の分子活動により燃焼ボイラーによらない70%省エネにつながる「クリーン新システムボイラー」技術の導入により低コストの技術の提供が出来ます。昼間は、人間も植物も成長・育成する為に必要な「遠赤外線」の研究も行ない、「LED照明」も光線の色で育成期、生長期、熟成期に使い分け技術も完成させたいと考えます。消費者へのアプローチも試食レストラン、通信販売等でモニタリングを行ない「西条ブランド」の構築が必要です。農業現場から消費者供給までの構築が当初10年間の計画。更なる努力期間が次の20年。50年先は若者も老人も活き活きた「環境未来都市=西条市」を夢見しています。

④ 将来ビジョンの実現のために5年以内に必要となる具体的な取組・事業(技術・システム、サービス、仕組み等)	
--	--

番号	取組・事業の名称 ※異なる名称を付けてください。	取組・事業の概要 ※500文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。	取組・事業の期間	実施主体・運営主体 ※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入するとともに、それぞれの役割を()内に記入してください。	価値、分野の種類	国の支援の必要性 ※必要性がある場合、「○」を記入してください。
(1)	農業技術の実証実践	農林水産省「新農業200X」の目的の大半の技術開発を行なう。バイオマス活用、自然栽培、酵素栽培も含めて検証	H23. 1～H28. 3	市、県農業試験場、公立大学・高校、民間企業、JA		
(2)	農業施設総合的開発と実証実験	栽培ハウス、栽培用新施設材料、LED照明、IC機器の利用、新開発省エネボイラーの開発・改善・実証	H23. 1～H28. 3	市、民間企業、農業試験場、県内協力教育機関、JA		
(3)	地域に相応しい「特産物」づくり	柑橘類の産地としての実績から「糖度2度アップしたら」のテーマで新市場開拓、他の野菜・果物の作物を特定、栽培	H23. 1～H28. 3	市、JA、農家、農業法人、研究団体		
(4)	「四国の竹のこ」集積地の役割	最終加工出荷場を目指す。中国産タケノコ(市場占拠率90%)のシェアをオール四国で30%奪還。国内トップを目指す	H24. 4～H29. 3	市、JA、農家、農業法人、研究団体		
(5)	「特産野菜」出荷対策の整備確立	「地域特産野菜」の出荷体制の構築。産地直送野菜としてのネット利用及び通販体制(COOPに負けない新組織作り)	H26. 4～H30. 3	市、JA、農家、農業法人、民間業者、商工会議所		
(6)	「特産果物」出荷対策の整備確立	「地域特産果物」の出荷体制の構築。産地直送果実としてのネット利用及び通販体制(COOPに負けない新組織作り)	H25. 4～H30. 3	市、JA、農家、農業法人、民間業者、商工会議所		
(7)	「特産野菜」加工利用の整備確立	産直野菜の自主流通と「JAからの市場流通」の違いは、「規格」である。全量販売の為の加工を考える。	H25. 4～H30. 3	民間業者、JA、農業法人、商工会議所、県農業技術センター		
(8)	「特産果物」加工利用の整備確立	上記に準ずる。	H25. 4～H30. 3	上記に準ずる。		
(9)	「試食レストラン」「マーケット」直販	「食の安全評価・普及」は、奥様方と子供達の評価からはじまる。レシピを考え即評価が得られる舞台が必要である	H28. 4～H30. 3	市、民間業者、JA、農業法人		
(10)	「市民菜園」「家庭菜園」絆作り	西条市民全体が「環境未来都市=西条農業革新都市」としての、自覚と地産地消の取り組みが必要である。	H24. 4～	市、商工会議所		

⑤ ④に記載した技術・システム等をインテグレートして実現するイノベーションの内容	※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。
---	---

日本には構造的な不況を脱する政策転換が必要であると考えます。工業国から改めて林業・農業・果実栽培・花木・畜産業・水産業の持てる資源を活かし、或いは環境の改善により「緑の循環型社会の構築」「新しい雇用の創出」「日本の国土の有効利用・再構築」「森林整備・河川整備」による、自然災害の予防対策「健康・安全・安心の食の自給率の飛躍的な向上」等が考えます。この様々なテーマに取り組み、課題の解決の為に「戦後の日本の経済発展を支えた一団塊の世代或いはもっと上の世代、これからの日本の再構築に必要な若年層」参加と、消費に大きな影響力を与える、女性・主婦・子供達のオール参加が必要である。どうも経済の動向から、雇用の形態の変化と収入のバランスが崩れた事で大きな変化が起きているように思う。「億病」になってしまったこと、「失敗は成功の元」といわれた経済成長期を経験した人々と、「失敗は許されない」という停滞期以降の人たちには大きなギャップが出来てしまったように思います。最近の状況を感じているのは、どうも10%程度の人が、80%程度の富を握り、80%の人たちのうち「職のある人たちは、失敗を恐れて現状維持の体制を見守る」「職のない人たちは、弱い人々への手厚い保護のなかで、何もしていない」。そのような状況を感じている。国内の身近な資源を利用して、「緑の循環」「都市ゴミ処理再生化」の仕組み作りにより人は「作る楽しみ」「愛情を注げば作物は、出来て応えて呉れる」「評価が得られれば、価値あるものとして対価が得れる」「新しい仲間との交流が喜びを見いださせてくれる」それが出来るのが「農業」だと思います。原点からの維新の心で作り上げたい「環境未来都市=西条農業革新都市」の誕生を20年のスパンで建設し、「50年後」の評価は、「機構も環境も素晴らしい食の安全・安心・旨味・甘味の溢れる 西条市」と評価できる町になって頂きたい。